

## 古見小学校存続・統廃合地域懇談会現況説明資料

令和5年10月23日 竹富町教育委員会

## 1 今後5年間の在籍児童数の推移

	年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	合計	学級数	担任数
古見 小 学 校	R5		1				2	3	1	1
	<b>R6</b>	<b>2</b>		<b>1</b>				<b>3</b>	<b>1</b>	<b>1</b>
	R7		2		1			3	1	1
	R8			2		1		3	1	1
	R9	2			2		1	5	2	2
	R10	2	2			2		6	2	2

※ 令和5年度～8年度までの学級数は1学級（複式）となる。

※ 令和9年度以降は2学級（複式あり）

## 2 学級編制基準と教職員数及び町費職員

(3) 小学校における2学年の児童で編制する学級（複式学級）

(4) 公立小学校の教職員配置基準（令和5年3月31日 改正）

学級数	1	2	3	4	5	6
教員数	2	3	5	6	7	9

※学校長含む

★ 上記教員数の他に、養護教諭、事務職員、用務員、学校司書、バスの運転手等の職員

## 古見小学校の存続・統廃合についてのアンケート結果（古見小学校校区住民）

令和 5 年 7 月 24 日実施

## ◎全体集計結果（古見・美原・由布・高那地区）

※アンケート 20 歳以上の人に実施（古見・美原・由布・高那地区人口 141 名中 20 歳以上 116 名）

1. アンケート表送付人数	116 名
2. アンケート回答者数	55 名
3. アンケート回収率	47.4%

## ※アンケート結果（※括弧はアンケート送付人数（全体）に対する回答率）

## 1. 古見小学校の将来についてお聞かせ下さい。（複数回答有り）

(1) 大原小へ統合する	25 名	45.5% (21.6%)
(2) 存続する	15 名	27.3% (12.9%)
(3) 休校する	12 名	21.8% (10.4%)
(4) どちらでもよい	6 名	10.9% ( 5.2%)

## 2. その他（ご意見等がありましたらお願いします。）

- ・保護者の意見を尊重してほしい。
- ・生徒達の環境・学習・友達等、総合的な思案で大原小へ統合する事が良いと思います
- ・地域の方、特に先輩方の気持ちを考えるとなかなか意見を言うのもつらいところでありますので、教育委員会が仕切り方向性を出していただけたらと思います。
- ・人が減るのはよろしくない。
- ・地域の人が減る、観光客が増える。
- ・この問題に声をあげた当初は大原小に統合するのが良いと考えていました。その後、地域の話しを聞く機会があり古見小への想いや地域との繋がりを重く受けとめました。
- ・本心は古見小がなくなるのは哀しいです。仮に休校した後の実務的な問題は抜きとするなら休校という形をとるのが理想です。
- ・古見小の児童少人数化に伴い、他の地域へ移る家族が増えている。統合することで古見、美原に住みながら大原小へ通えることで移住する人が増える可能性が高くなり地域活性化につながると思う。現在子どもが古見小へ通っているが、全校生徒 3 名では、やはりきつく通うのが辛いと言っていた。スクールバスも出ており、子ども達のためにも統合がいいと個人的には思う。仮に休校し再開してもまた同じ問題が出てくると思うので、このタイミングで統合がいいのでは、地域に子ども達がいれば子ども会で地域の方たちとの交流ができるが、このまま地域を離れる家族が増えれば、それも難しくなる。
- ・同年代とのかかわり等、大切な時期に 1~2 名というのは、成長段階において欠けると思う。大人に囲まれて過保護になる可能性も、交通の便も今の時代良くなっているの

で大原までの道のりは通学可能だと思う。毎回、何回も統合・存続と問題が繰り返えされやむなく古見を離れる人を見ている、今回ではっきりさせてほしい。

- ・現時点で来年の在校生が2名（もしくは1名）しかいないので統合が現実的。
- ・当初は少人数での古見小が良いと思っていましたが、一部の人の子どもの為ではなく地域のために残したいという考え方や、「改修したからには何年使わなければならぬ」というような行政の都合等、一番大切な子ども達が置き去りにされている。存続構想には納得できません。そんな学校なら、いっそう閉校すれば良いと思います。
- ・発表の場が多く人前で、発表する力が養われる。
- ・マンツーマンでの授業が受けられる。
- ・野外活動が容易にできる。
- ・子どもの人数が少ないので大原小へ統合するしかないと思います。しかし古見小の校舎や校庭等は、まだまだ使えるので何らかの形で残せたら良いと思います
- ・なかなか古見に住む人が少ないので難しいかも知れませんが、可能であれば子供の人数が増えた時には復活できれば良いと思います。
- ・少ない環境だと子ども達が可哀そう。
- ・我が子を古見小に通わせ少人数の中で教育出来た事は、子供達の成長に良かったと思います。
- ・今回の存続・統廃合については、「児童生徒の在籍数、学習環境整備、学習効果の向上、学校の効率的運営、財政の円滑な運用」等の観点から検討委員会を予定されているようですが、住民アンケートを実施するのであれば現時点での古見小学校の実情、今後の方向性を示したうえで、やっていただきかったです。
- ・今回のアンケートは統廃合ありきで実績づくりのように感じられます。存続を希望しますが、上記の観点から存続が困難であれば休校し、今後の時代背景や、地域住民の意見等を踏まえ判断しても遅くはないと思います。
- ・子供達に刺激が無く、競争の意識が無くなっている。また、学校運営にも経費がかかりすぎだと思えます。
- ・古見小は、緑がたっぷりの豊かで楽しい学校なので残して行きたいです。
- ・少人数だから出来ること、古見小学校だから出来ることいっぱいあります。
- ・私の弟や他の子供達にも、古見小学校に通ってほしいです。
- ・個人的には、できる限り存続ありきの話ができたらという願いもあり、小規模認定校等と何らかの方法がないかと模索しながら、考えてきました。ただ、時間的に手遅れという気持ちも残念ながら感じております。数年早くこの事態に気が付けたらと後の祭りですが、そんな思いも拭い去れません。というのは、一言で言い切れませんが、やはり古見小学校の素晴らしい環境をととても大切に思っているからです。古見地域の素晴らしい自然、小人数制ならではの落ち着いた和やかな雰囲気、少人数だからこそ叶えられる取り組み等、素晴らしい面が多々あります。これは客観的に地域のものとして、また保護者として15年に渡り小学校を見てきた中で実感していることです。（実際に通っている娘の日々の様子や言動からも汲み取っています。）また、これからデジタル化社会が更に加速していく中で、実体験を基盤とするような学習の取り組みがとても大事で、欠かせない重要な要素になると思うので、海洋教育のような取り組みを少人数でじっくりと

出来るという環境の素晴らしさを心底実感しています。これは、本当に出来る限り、これからも1人でも多くの子供達に経験してほしいと考えます。

それと同時に、二度話し合いが持たれた中で、客観的な判断材料が上がってきた中で存続していくことは、やはり難しい事だとも感じています。新入生が少なくても、たとえ1人であったとしても、今までは上級生の児童がいたからこそ、成り立ってきた背景もあると思うので、やはり今の状況からすると、現状が（児童数）変わらぬまま、存続をしていくことは現実的でないことも理解しております。

存続、統合、休校のいずれにせよ、結果を出さなければならない問題です。個人的な思いは色々ありますが、結果にこだわるつもりはありません。一緒に最善な方法を見つけられるように協力し合えることだと考えております。

・来年度、新一年生に上がる娘がいます。この問題に声を上げた当初は、大原小に統合することが良いと考えていました。その後、地域の方の話聞く機会があり古見小への想いや古見小と地域の繋がりを重く受け止めました。その結果、私が古見小をどうこう言う事は出来ないと思うようになりました。

私たち親は、娘の事だけを第一に考えて、この意見書を書きます。仮に来年度までに私たち家族が、古見に住みながら大原小に通うということが、不可能な状況になるのであれば古見から大原小へ通える地域へ引越しをしようと考えていますのでなるべく早い時期での決着をお願いいたします。

本心は古見小がなくなるのは寂しです。何が一番良い形なのか、仮に休校した後の実務的な問題は抜きとするなら休校という形をとるのが理想です。

## 古見小学校の存続・統廃合についてのアンケート結果（未就学児童保護者）

令和5年7月24日実施

## ◎全体集計結果（古見・美原・由布・高那地区）

※アンケート20歳以上の人に実施（上記地区の就学時前のお子さんを持つ保護者20名に送付）

1. アンケート表送付人数	<u>20名</u>
2. アンケート回答者数	<u>8名</u>
3. アンケート回収率	<u>40.0%</u>

## ※アンケート結果（※括弧はアンケート送付人数（全体）に対する回答率）

## 1. お子さんの将来についてお聞かせ下さい。（複数回答あり）

(1) 古見小へ入学させたい	<u>1名</u>	<u>12.5% (5.0%)</u>
(2) 大原小へ入学させたい	<u>3名</u>	<u>37.5% (15.0%)</u>
(3) どちらでもよい	<u>4名</u>	<u>50.0% (20.0%)</u>

## 2. その他（ご意見等がありましたらお願いします。）

・古見小学校の子ども達を見ていると伸び伸びとしていて、休日でも小学校に集まって遊ぶなどして、とても楽しそうでした。先生方も明るく優しい方ばかりで子どもは、是非古見小に入学させたいと思っていました。校舎も古いながらもきちんと手入れをされていて校庭も芝生でとても良い環境だと思います。しかし、入学する子ども達が少人数という点には魅力を感じていましたが、上級生が不在な点は、とっても可哀そうなのかなあと考えています。

・どちらでも良いと書きましたが、古見小に同級生もしくは在校生が多ければ古見小に入学させる事に問題は、ありませんでした。しかし来年度の在校生及び新入生があわせて（2～3人もしくは0名になるかも）では、子供の事を考えれば大原小と統合と考えるのが当たり前だと思います。地域の人の中には、廃校にしたいと言う意見の方もいますが現実には子供を入学させる親としては、子供の事が一番大切だと言う事をわかってほしいです。

・古見はとても良い所で私は大好きですが、人や子供が古見に増えるのがとても難しいです。なぜなら住む所が少なく土地もほとんど売られており、新たに人が住もうとしても、なかなか出来ないのが現実です、しかも古見に住んでも古見小に入学しなければいけない同級生、在校生が少ないので、子供の為に古見から引越す人もいます。

この現状をどうにかしなければ、古見小の存続どころか集落自体の存続が危ないと思います。長い歴史のある大好きな古見です、是非もっと多く住めるように町役場の方々の協力をお願いします。

・是非、これからの子供のいる親と教育委員会及び町役場の方々との話し合いの場を設

けて下さい。(アンケートでは無くリアルな住民意見を聞いて下さい。)

- ・来年1年生に上がる娘がいます。仮に来年度、古見小の在校生が数人(上級生や同学年くらいのお友達)がいれば、古見小に入学させようと思っていました。古見小に入学させる事が嫌で大原小に入学させたいと思っている訳ではなく、古見小の在校生の人数が問題なのです。このままいくと来年度は新1年生、新3年生の計2名になる可能性が高く、あまりにも少なすぎる。

- ・運動会や遠足はどうなるのか、その先の修学旅行は、一人で行くのか等、様々な心配事が浮かんできます。たとえ先生と一対一で勉強を教えてもらえたとしても、地域で大切にされたとしても友達と一緒に勉強し遊び、時にはケンカをする等、その様な当たり前の事が娘にとって何よりも一番大切だと考えます。

本人にも、この問題については大まかな話はしています。彼女は、このまま幼稚園のお友達と一緒に大原小に入学したいと言っております。

- ・現状が変わり、児童数が増えるような取り組みができたのなら、古見小に入学させたかったですが、このままであれば大原小学校に入学させたいです。」

- ・古見小学校、古見地区、子供たちの為にご尽力下さり有難うございます。

## 古見小学校存続・統廃合に関する未就学児保護者との意見交換会要約

- 開催年月日： 令和5年10月5日（木）19時～21時10分  
開催場所： 古見小学校ランチルーム  
参加者： 未就学児保護者16名（9世帯）、  
検討委員会2名（竹盛、石原）、教育委員会4名（佐事、根原、西原、大屋）

### 【会合の趣旨】

#### <会合の目的>

- ・古見小学校校区内の未就学児童保護者との意見交換会を実施する
- ・古見小学校の存続または統廃合について検討

#### <調査結果の概要>

- ・アンケート結果の集約と分析を行った
- ・複数の案が寄せられたが、大原小学校への統合や古見小学校の存続に関心があった

#### <今後の方針>

- ・意見をまとめ、地域住民に説明する
- ・検討委員会と教育委員会で最終判断する

【アンケート結果】 アンケート送付数 20名 回答者数 8名

#### <要点の集約>

- ・古見小学校への入学を希望する方: 1名
- ・大原小学校への入学を希望する方: 3名
- ・どちらでも良いとする方: 4名

#### <その他の意見>

- ・過去の統廃合の経験や国の財政支援による校舎の影響もある
- ・地域の特性や将来の児童数予測等も考慮すべき

### 【過去の経緯】

#### <学校の存続と統廃合の問題>

- ・昭和51年に児童数がゼロになり、存続危機に直面
- ・地域住民の協力により転校生が入り学校存続となった
- ・過去には統廃合の問題も起きたが、施設の耐用年数や町債返還などから白浜中学校や波照間中学校の統合問題の際には適用されなかった

#### <現在の状況と課題>

- ・再び児童数の減少に直面し、今回の存続案も検討されている

- ・地域の特性や将来の児童数予測を踏まえ、学校の存続方針を決定する必要がある

#### 【大見出し】現在の学校の状況と課題

##### <県の職員配置について>

- ・10月から県の人事作業が進んでいる
- ・1月2月には教職員案が作成され、配置される予定

##### <教育事務所からの要望>

- ・早急に結論を出すよう要請あり（古見小学校への職員配置）

##### <職員配置や未就学児の問題>

- ・現在3人の教職員がいるが、生徒数が減れば減となる
- ・入学予定のお子さんが2人で大原小へ入学希望する可能性もあり、職員人数が減る可能性もある
- ・休校にするかどうかとも考慮が必要
- ・4歳～0歳の未就学児もいるため、休校も検討

#### 【大見出し】意見交換と意義

##### <統合か廃校かの検討>

- ・意見を出し合い最善策を見つけるための話し合い
- ・皆さんの意見によって方向性を決めたい

##### <意見の違いがあること>

- ・子供たちの希望や地域の意見が異なる
- ・お互いの意見を尊重し合い、合意を形成する必要がある

##### <地域の大切さ>

- ・地域の発展や子供たちの成長には教育施設の存在が重要
- ・古見小学校を続けていくことで子供たちの教育環境を整えたい

##### <意見発言の重要性>

- ・教育委員としての経験から、統合には寂しさや継続の望みもある
- ・皆さんの思いを聞き合いながら最善策を探りたい

#### 【大見出し】未来への視野とまとめ

##### <統合への対応>

- ・統合後の教育施設や場所について検討が必要
- ・地域の発展や交通インフラを考慮し、意見を出し合い判断する

##### <子供たちのために>

- ・子供たちが健やかに育つための教育環境を整えることが重要
- ・飛び級や友達関係の維持など、子供たちのニーズに対応した施策を考える



<皆さんの意見を尊重>

- ・皆さん一人ひとりの思いと意見が重要
- ・意見を出し合い、最善の方法に向けて話し合いを進める

【大見出し】結論を出すための進行状況

<現在の課題と進め方>

- ・結論を急ぐ必要がある
- ・地域の意見や皆さんの意見を聞きながら最終判断を下す

<過去の統廃合の問題>

- ・過去3回の統廃合の問題があったが、協議や協力が難しい状況
- ・今回は地域の思いと意見を優先し、決定を進める

<意見交換と最善策>

- ・統合するか廃校にするかの答えを見つけるための話し合い
- ・地域の一致と最善の方法を模索する

<皆さんの意見を求めて>

- ・皆さんの意見を聞きながら結論を出す
- ・地域の思いを尊重し、意見を共有する

<緊張と勇気>

- ・発言することに緊張するが、地域のために意見を出し合いたい
- ・統合か廃校かの答えを見つけるために、皆さんの意見を尊重する

【大見出し】休校による学校の維持管理について

<休校になった場合の学校の維持管理>

- ・公民館へ依頼する方向になる
- ・保育所幼稚園は一緒。小学校で別々になのがわかりづらい

<休校後の学校再開について>

- ・分校という手法もある
- ・地域の公民館は人数が少ないため、維持管理は難しい

【大見出し】学校再開後の影響と考えられる変更

<他の学校との統合>

- ・大原小学校から古見小学校へ戻る可能性は薄い。
- ・子供たちの意見を聞いて検討する必要がある

<学校の統合や分校による対応>

- ・沖縄県北部では一人で授業を行っている学校もある。分校
- ・大原小学校の分校化による教員の人数や教育環境の変化

**【大見出し】学校再開後の選択肢と検討事項**

＜大原小学校古見分校の設置＞

- ・子供の性格や状況によって選択する可能性
- ・周りの友達関係や学校の人数による影響

＜校長や教師の配置について＞

- ・教頭先生が授業を行っている現状
- ・生徒数がゼロの場合の学校の運営方針

**【休校による影響と対策】**

＜復校するための復活条件＞

- ・最低でも3名以上の児童の在籍が必要

＜転校生の受け入れ＞

- ・転校生の受け入れが難しいが、1年生だけの学校では教育効果が限定される

＜休校か廃校か＞

- ・休校や廃校の選択肢がある

**【学校の規模と教育のあり方】**

＜学校規模の制約＞

- ・学校規模が小さくても運営が難しい

＜小規模認定校の特色＞

- ・小規模認定校は特色を持たせることができる

＜環境教育の充実＞

- ・従来の教育に加えて体験型や環境教育を実践したい

＜継続的な教育の提供＞

- ・学校の歴史を考慮し、継続的な教育を提供する

**【学区の変更と教育の選択肢】**

＜団地への移住と学校選択＞

- ・団地に住むことで学校選択肢が広がる

＜教育の選択肢を増やす＞

- ・教育の選択肢を増やすことができる

＜理想と現実の関係＞

- ・現実的な視点が求められる

**【保護者の意見と将来の展望】**

＜教育面への期待＞

- ・保護者からの教育に対する期待がある

＜生徒の不登校問題＞

- ・生徒の不登校問題が存在する

＜小学生が望む学校＞

- ・子供の意見を尊重した学校を望む

＜将来の展望＞

- ・将来の展望を考慮しながら対策を考える

## 【大見出し】古見小のあり方による教育の変化

### <小見出し>

- ・分校による小規模・離れた教育の提供
- ・条件を設けて受け入れる方向性
- ・少人数での学習の効果
- ・分校存続の歴史
- ・地域の影響と陸の繋がり

### <小見出し>

- ・児童数の増加や学校の存在意義
- ・地域の里親制度と島での学校存続
- ・子供の意思や地域の希望を考慮
- ・子供の友達作りの問題と学校の将来
- ・学校存続に伴う人口増加の課題
- ・団地での子供の入退学の影響
- ・団地の開放や地域の拡大の必要性

## 【大見出し】土地や学校の問題についての意見

### <土地に関する意見>

- ・古見の土地が好きで土地を探すために考えてほしい
- ・土地の購入が難しい
- ・学校の跡地をどう活用するか考えるべき
- ・活用団体があれば仕事や人口が増える可能性もある

### <学校に関する意見>

- ・古見小学校のメリット、デメリットを考えるべき
- ・学校選びのシステムについて検討すべき
- ・子供たちが一緒に学ぶ機会を増やすべき
- ・一人での学校経験は辛いと感じる

### <将来に対する懸念>

- ・先行きを考えると心配な点もある
- ・古見小学校を休校にしても将来同じ問題が起こる可能性
- ・将来を見据えた解決策を模索すべき
- ・子供たちの幸福を考えながら決断すべき

## 【教育委員会の判断】

### <意見反映>

- ・地域懇談会や検討委員会で意見を反映しながら判断したい

### <最終結論>

- ・教育委員会と議会で子供のことを考えて結論を出したい

## 古見小学校存続・統廃合地域懇談会 要約

開催日時： 令和5年10月23日（月）19：00～20：20

開催場所： 古見小学校体育館

参加者： 地域住民36名（別添名簿うち8名検討委員）、  
検討委員2名（竹盛、石原）、教育委員会4名（佐事、根原、西原、大屋）

### 【地域懇談会開催の目的】

#### <概要>

- ・古見小学校の存続および統廃合についての地域懇談会を開催する

### 【挨拶と基調報告の要点】

#### <挨拶>

- ・参加していただいた皆様に感謝の意を伝える

#### <基調報告>

- ・アンケート調査や委員会の活動を報告する
- ・教育委員会の最終的な判断を重視することを伝える

### 【在籍児童数の推移についての報告】

#### <現在の在籍児童数>

- ・2年生1名、6年生2名の複式学級

#### <今後の在籍児童数予測>

- ・令和6～10年度までの予測児童を説明する

### 【教員配置の変動についての報告】

#### <教員配置の基準>

- ・学級数に応じた教員の配置基準を説明する

#### <教員配置の予定>

- ・令和9年度以降の学級数に応じた教員配置を示す

### 【経緯の説明】

#### <イベントの開催>

- ・保護者意見交換会（5/1）未就学児保護者意見交換会（10/5）やアンケート調査の実施を報告する

#### <活動概要>

- ・検討委員会（8/15）の開催や委嘱状の発行を説明する

### 【アンケート調査結果の報告】

#### <調査の内容>

- ・保護者と未就学児童の意見を尋ねたアンケートの実施を報告する

### <結果の集計>

- ・アンケート結果の集計について説明する

#### 【アンケート調査の結果】

##### <古見美原由布高那地区のアンケート>

- ・送付人数は116名、回答者数は55名（回収率：47.4%）

##### <古見小学校の将来について>

- ・統合する：25名（45.5%）
- ・存続する：15名（27.3%）
- ・休校する：12名（21.8%）
- ・どちらでも良い：6名（10.9%）

##### <未就学児童生徒の親御さんのアンケート>

- ・送付人数は20名、回答者数は8名（回収率：40.0%）

##### <未就学児の将来について>

- ・古見小学校へ入学：1名（12.5%）
- ・大原小学校へ入学：3名（37.5%）
- ・どちらでも良い：4名（50%）

#### 【意見交換会への移行】

- ・休校や統合に関して意見が割れている
- ・アンケート結果意見を読んでから話し合う
- ・参加者に意見を述べてもらう

#### 【過去の経緯と債務の詳細】

- ・40年以上前から学校の問題があり、学校施設は国庫補助や町債などで建設している
- ・町債償還は今年度3月までに終わる見込み

#### 【統合・休校の選択肢の提示】

##### <統合・休校の選択肢>

- ・補助金を利用して学校校舎を建設しており、耐用年数がある中で目的外使用はできない
- ・統廃合、休校について検討する

#### 【地域での意見を重視した方針】

##### <地域での意見収集>

- ・地域の意見を聞いて教育委員会や教育総合会議などでまとめる
- ・12月の議会で決定する必要がある

#### 【存続か統合かの難しい問題】

##### <存続の可否>

- ・古見小学校は存続が厳しいと考える
- ・休校や統合といったパターンも検討すべき
- ・地域の人口増加が難しい現実も考慮すべき

**【住民の意見を重視した議論の必要性】**

<住民の意見収集>

- ・住民の声を反映しながら教育行政を進めるべき
- ・教育委員会や議会で意見を述べる機会を設ける

**【再開条件の具体的な提示が必要】**

<再開条件の提示>

- ・最低でも3名の児童が必要
- ・上級学年の児童がいない場合、1年生の受け入れも検討する必要がある

**【復校に関する懸念】**

<復校が困難である理由>

- ・古見小学校の児童数不足が課題
- ・児童数減少による復校の困難性

<復校のための提案>

- ・児童数がゼロにならないように条件を設ける
- ・在籍の確保と復校の支援が必要

**【休校に関する話し合い】**

<休校期間>

- ・休校は4月からの導入を検討中

<統合による解決策>

- ・統合決定があり、統合による在籍の減少が予想される
- ・教育委員会で意見を集約し最終的な判断が必要

**【学校統合の困難さ】**

<復校期間と児童数の想定>

- ・児童数が増える可能性がある場合もあるため、具体的な期間を設ける必要あり
- ・委員会で議論し、計画を具体化して進める必要がある

**【跡地の利用と活性化】**

<休校後の跡地活用>

- ・跡地の利用方法によって地域の活性化が期待できる
- ・統合に伴う跡地利用の計画策定が必要

**【未就学児の入学時における児童数予測】**

<入学時の児童数の想定>

- ・4歳児を想定した場合、3名以上の児童を確保できる場合は休校期間を設ける
- ・具体的には委員会で各年度ごとの児童数を決定

**【子供たちと親の希望】**

<子供たちの影響や教育について>

- ・子供たちにはできるだけ影響を与えずに復校を進めたい
- ・親も子供たちに対して教育環境の改善を望んでいる

### 【自治体の役割と計画の具体化】

#### <役場や教育行政の考え>

- ・具体的な期間を設け、必要な投資を行う必要がある
- ・委員会で計画の具体化や詳細な条件を話し合う必要がある

### 【意見の多様性】

#### <保護者の意見>

- ・保育所、幼稚園と一緒に来たのに別れるのは寂しい
- ・一緒にいたいという声が多い

#### <未就学児の保護者の意見>

- ・一緒にいたいという意見もある

### 【休校の影響】

#### <保護者の意見>

- ・上級生がいないと復活につながらない
- ・休校した際に復活の熱量はないと感じる

### 【学校の統合とセレモニー】

#### <統合を提案する保護者の意見>

- ・休校か統合になるのであれば、セレモニーを行うべき

### 【学校の廃校と地域活用】

#### <石垣市の現状と意見>

- ・休校して復校が難しい学校も多い
- ・跡地を有効活用する方が良いのではないか
- ・コミュニティ事業の導入や未来の考え方に注目するべき

### 【校区制の廃止と学校選択制】

#### <学校選択制の視点>

- ・学校選択制では多様な選択肢が出てくる
- ・古見小学校の生徒数が減少し、職員配置にも影響を与えるリスクがある

### 【休校期間と校舎利用】

#### <跡地利用についての意見>

- ・早く跡地利用の運動をするべき
- ・古見のために校舎を活用する団体を探すべき

### 【行政財産の形態と登録】

#### <行政財産とは何か>

・行政財産とは、公用又は公共用に供し、又は供することを決定した財産であり、学校は行政財産として登録されている。

<竹富町における学校跡地利用検討委員会>

・地域公民館の意見を取り入れた跡地利用委員会を設置し検討される予定。

#### 【跡地利用に関する懸念と公民館情報の共有】

<跡地利用検討委員会の役割>

- ・跡地利用検討委員会を立ち上げる際、公民館情報を共有願う。
- ・地域の意見を反映するためにも、検討委員会に公民館長を選定頂きたい。

#### 【地域の意見を反映させるための対応】

<地域の意見の反対と波照間空港の例>

- ・地域の意見と反する利用が行われる場合、反対の意思表示を行いたい。
- ・波照間空港の例のように、自衛隊や軍事防衛の利用が行われることは望ましくない。

#### 【古見小学校の統合と現状の問題】

<古見小学校の生徒数の減少>

・古見小学校の生徒数は年々減少しており、将来的には数名にまで減少する可能性がある。

<統合後の跡地利用と新たな未来>

- ・統合後の跡地利用は未定であり、新たな未来のための使い方が求められる。
- ・古見小学校の歴史は終わらず、新しい未来のために必要性を感じる。

#### 【学校の存続について】

<学校の統合と住宅問題>

- ・学校の存続について思う
- ・団地計画の進捗について考える
- ・土地の売買が難しい状況の背景を考察する

<違反と拡張の制約>

- ・違反に関する問題と防潮林の影響
- ・学校の拡張が制限されている状況

<学校コストと学校の意義>

- ・学校の存続と地域のコストについて考える
- ・学校で学ぶことの重要性と意義について思う

#### 【小規模校の導入について】

<子供の視点>

- ・現在の小学校が好きな理由と願望
- ・子供たちの視点を大切にしたい考え

<実体験とアクティブラーニング>

- ・実体験を通じて学ぶ重要性について述べる
- ・現在の授業スタイルと脳科学の関連性について考察



#### <地域の特徴と人数増加の願望>

- ・地域の特徴と海洋教育の指定について説明
- ・子供たちの増加とゆったりとした教育環境の希望

#### 【娘の意見と教育不足の心配】

##### <娘の楽しさと責任感>

- ・娘の学校生活の楽しい経験について述べる
- ・責任感と兄姉の存在の重要性について考える

##### <成長と教育>

- ・娘の成長に伴う教育の不足に対する心配
- ・個別の学校でも充実した教育を実現できないか

##### <公民館長の立場>

- ・大人の都合に振り回される子供たちに対する思い
- ・子供たちの楽しく生きる空間の重要性を強調する

#### 【主張】

##### <存続に賛成>

- ・環境を大事にする
- ・正確な判断をする
- ・学校の歴史と伝統を重視する

##### <存続に反対>

- ・子供たちのことを考える
- ・地域の意見を尊重する
- ・総合的な判断が必要

#### 【感謝と困難】

##### <感謝の気持ち>

- ・子供たちの成長と支援に感謝
- ・地域との絆を大切にする

##### <困難な状況>

- ・子供たちを振り回してはいけない
- ・つらい決断だと理解してほしい

#### 【意見のまとめと協力】

##### <学校存続・統廃合検討委員会による検討>

- ・意見を総合的に判断する
- ・将来の見通しも考慮する
- ・皆の協力が必要

##### <懇談会終了に向けて>

- ・意見を出し合うことが重要
- ・皆が積極的に参加する

## 古見小学校に係る起債償還金の状況について

教育委員会・総務課

## 1. 古見小学校屋内運動場

借入金額：33,100,000円(内訳：義務教育債27,500千円・財対債5,600千円)  
起債年度：平成10年度  
借入日：平成11年5月28日  
償還期間：25年(3年措置)平成11年9月30日～令和6年3月31日  
借入先：簡易生命保険資金  
償還方法：元利均等(半年賦)

## 1) 義務教育施設等整備事業債

償還済み：元金：26,015,425円 利子：6,887,557円 計：32,902,982円  
未償還額：元金：1,484,575円 利子：18,955円 計：1,503,530円

## 2) 財源対策費

償還済み：元金：5,297,686円 利子：1,402,571円 計：6,700,257円  
未償還額：元金：302,314円 利子：3,860円 計：306,174円

計) 償還済み：元金：31,313,111円 利子：8,290,128円 計：39,603,239円  
未償還額：元金：1,786,889円 利子：22,815円 計：1,809,704円

## ■屋内運動場施設の目的外使用について

資金借入に係る条項の第9条に基づき、当資金を使用した財産の全部または一部について、目的に反する使用、貸付又は一切の処分行為(譲渡、交換、撤去、担保権の設定その他一切の処分行為)をしてはならないとされており、統廃合後の学校施設の利活用に関しては、その取扱いに十分留意しなければならない。

- ・条件に違反した場合、繰上償還することになる。
- ・財産の目的外使用及び処分の承認を得ることができる(手続き等について要調査)(※起債残額については、令和5年度(令和6年3月31日)において償還完了予定をしている。)

●古見小学校の統廃合に係る起債償還状況

1. 16号棟 屋内運動場 面積 650㎡

建築年度：平成11年3月

補助年度：平成10年度

起債借入年度：平成11年5月28日

起債借入金額：33,100,000円

最終起債償還年月日：令和6年3月31日

起債残額：1,786,889円（令和5年7月7日現在）

（※起債残額については、今年度において償還を完了予定している。）

- 1 開催日時 令和5年11月7日(火)午後7時00分 開会
- 2 開催場所 古見小学校ランチルーム
- 3 出席委員及び事務局員及び記録員 参加委員 10名、欠席委員 1名

職名	氏名	出欠	職名	氏名	出欠
委員長	竹盛 洋一	○	事務局	佐事 安弘 教育長	○
副委員長	石原 和義	○	"	根原 健 総務課長	○
委員	渡口 里夏	○	"	西原 智 教育課長	○
"	今村 愛	○			
"	上原 崇史	○			
"	林 良子	○			
"	西表 恵	○			
"	高松 由美	○			
"	屋宜 靖	×			
"	仲新城 理香	○			
"	新盛 基代	○	記録員	大屋 裕次 総務課長補佐	○

【総務課長】皆さんこんばんは。ただいまより第2回学校存続、統廃合に関する検討委員会を開催していきたいと思います。本日は屋宜委員より一任する旨の連絡がありましたので報告します。まず始めに教育長よりご挨拶をお願いいたします。

【教育長】皆さんこんばんは。先日は、古見小学校と上原小学校の子供たちが町長に提言したこと。つまり、ペットボトルを削減するという事で、港にウォーターサーバー設置が実現して、子供たちの願いが本当に実現できてよかったかなと感じました。そういう中で今日は、皆さんに心苦しく大変な思いであるとは思いますが、ぜひこれからの子供たちのことを考えて最後の委員会ということで、ぜひ皆さんの意見をまとめていけたらいいかなと思います。そういう意味でこれからの説明の中で、これまでの会合の声をAI音声文字起こし機能で集約、箇条書きした資料を見ながらこれまでの流れを参考にしながら、結論に持っていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【総務課長】はい、どうもありがとうございました。それでは委員長の方で進行をお願いします。

【竹盛委員長】はい皆さんこんばんは。今日はちょっと涼しくて、過ごしやすい日だったと思いますけれども、古見小学校の問題となると、ちょっと重くて暑い。非常に厳しい決断をしなくちゃいけないということになると思うんですけれども、これまでの会議といいますか資料を見て、最後のページの方にあると思うんですけれども、アンケートを含めて本日含めて6回の話し合いが持たれておりまして、今日結論というわけではないんですけれども、でも教育委員会の会議のほう、それから総合会議、それから議会という形になるみたいです。

ですから私達のこれまで話し合ってきたことが、どのように話し合われたかという結果をもとに判断する、判断されるかと思います。今日の第2回検討委員会で最後になりますけれども、最後という形で、これまでの話、意見として述べられなかったことも含めてですね、今日、話し合えれば忌憚のないご意見を出していただければと思います。

それでは早速これから始めたいと思います。

まずは未就学児童生徒保護者意見交換会が10月5日にありました。結果を含めて総務課長の方から報告をお願いします。

【総務課長】まず検討委員会の役割ということで、皆さんに検討委員会設置要綱を配って熟知してと思いますが、設置要綱第2条に基づき検討委員会は次の業務を行うこととなっております。（1）児童・生徒在籍数の動向及び適正規模校等の調査（2）学校・保護者PTA・地域の意見聴取と合意の確認（3）地域懇談会の開催ということで踏まえてやってきました。まず資料1の方ですね。

まず在校生の親との意見を踏まえてですね、次年度以降、古見小学校に入学予定の未就学児童生徒の親と意見交換会を持ちました。

目的としては古見小学校校区内の未就学児童保護者との意見交換会を実施する。古見小学校の存続または統廃合について意見交換を行いました。

事前のアンケート調査、回答結果報告を行いまして複数の案が寄せられ、大原小学校への統合や古見小学校の存続に高い関心がありました。

それをまとめて地域住民の方に説明をしております。アンケート送付は20名の方に送付して回答者数は8名。古見小学校への入学を希望するが1名、大原小学校への入学を希望するが3名、どちらでも良いという方が4名いらっしゃいました。地域懇談会等でもアンケートの結果を皆さんにお知らせしてございます。過去の統廃合の経緯の説明

とともに意見もありました。地域の特性や将来の児童数の予測等も考慮すべきだという意見もありまして、過去の経緯も踏まえて説明をしまいいりました。

内容は会議録の通りでございますが、統合か廃校かの検討について意見を出し合い最善の意見を見つけるための話し合いって形で皆さんの意見によって方向性を決めたって形で進めてきました。もう、要するにお子さん子供たちの希望や地域の意見がいろいろとありましたが、ほとんどの親御さんが、やっぱり低学年児だけでは学校の運営等には不安がある、在校生がいないということであれば大原に統合したいって意見もあり大方そういう形で意見がまとめられたような感じだと思っております。中身については目をしばらく通していただければと思いますが、よろしく願いいたします。

**【全委員】資料確認**

**【総務課長】** おおむね6ページが意見交換会に対するとりまとめとなっております。

休校の話も出ていましたが、休校したとしてもまた将来同じ現象が起こるんじゃないかという結論的なものの意見もありました。やっぱりこれを繰り返すんじゃないかという意見です。大きな課題としては、やっぱり幼稚園、保育所と一緒に出ていて、小学校で分かれてまた中学校で一緒になるというような意見も。大勢の学校で授業を受けさせたいって意見もありました。まず現状として在校生が3名いまして、うち2人が6年生、1人が2年生。2人が卒業すると、2年生は不安があって転校したいって意見もあります。来年、1年生に入ってくる方が2名いますが、1人減とも

**【仲新城委員】** 1人。島から来週には出て行く。

**【総務課長】** そういう話があって残った1人は大原へ行きたいって話しに。

**【仲新城委員】** 平真小へ転校だそうです。

**【総務課長】** そうなると、4月には在校生徒はゼロになると。教員の配置とかいろいろあるもんですから。ゼロになると休校か廃校かという話でことが進んでいました。また何年後には、いるということで推移を出していますが、やっぱり同じことの繰り返しじゃないかという、話もありまして、未就学児童生徒の親の意見としてまとめて

あります。やっぱり高学年がいないというのと在校生がゼロになるという課題があるものですから。以上報告です。

【竹盛委員長】よろしいですか。まだまだ細かな意見があったと思いますけれども、これが未就学児童生徒保護者意見交換会の結果であります。そして、次は地域懇談会結果についてよろしくお願いします。

【総務課長】地域懇談会が10月23日古見小体育館でありました。検討委員の皆様もほとんど参加なさったと思います。

その中でもほとんど同じような意見でアンケート結果を皆さんにお配りした通りでございます。そういう中で最終的に参加した方々からいろいろなご意見ありました。休校して、再校ができるのか、統廃合してまた再開ができるのかなどの意見もありました。

しかしやっぱり低学年だけでは難しいとあって最終的にはこれからも同じような繰り返しが続くのであれば早めに結論を出して欲しいという意見もありました。団地もあるので、団地をうまく活用して児童生徒を増やすための団地だったんじゃないかっていう話もありましたが、そういう意味で現状としても、増えていない状況であるし将来とってもやっぱり1人2人という形になってそれが果たして、またそのときになってまたやろうかっていう話を受けて最終的にもう早めに結論を出してほしいという意見が最終的にまとまったような感じに私は思っております。

【竹盛委員長】はい。未就学児童生徒保護者意見交換会でもあったんですけども、それから今の地域懇談会でも話しがあったと思うんですけども、結局、古見の町営住宅があるのにそこに入れなくてというそういう話がありました。

町営住宅というのは、誰でも入れるわけじゃなくてその人の収入によって、家賃も変わってくるということもあって、あまりにも高額の所得者だと入れないというのもあるみたいですね。

そういうのも含めて、あと古見に住みたいけど、土地を買って、おうちを建てたいけどなかなか土地がなくて難しいって話もありました。そういうことも課題の一つではあるんですが、そういうことで、児童生徒が段々と減っていた。昔は、里親みたいな感じで、いろいろ対応もして、どうにか9名、11名とそこぐらいいまでなっていたことを覚えているのですけれども、なんかこういう対策がこれまでできなかったのかなっていうのもありますね。その未就学児童生徒保護者の意見の結果、それから地域懇

談会の結果等をまとめたのがありますが、これを見てですね、こういうことがあったんじゃないんですかっていう、これにないものがありましたら、どなたか意見ございませんか。この報告の通りという形で委員会に上げると思いますが、なんか付け足して欲しいみたいなありましたら。

新盛さんは古見をよく知っている中の1人でもありまして、苦しい思いもあると思うんですけどどうでしょうか、

【新盛委員】 やっぱりそういうときが来たなっていうのはもう感じております。本当に残念ですけどつらいです。やっぱりでも私達はこんな小さな村でみんなの協力を得て、公民館運営ができ、それからお祭りができてるわけなんですね。

そういうのがなくなってしまうのかなっていう心配もあるし、私は決してこの学校統合っていうのが反対ってわけじゃありません。

親がそういう気持ちで一生懸命頑張ってる。そしてまたそこに行かせてもやるよっていう気持ちで村のことをやってくれたらいいのかなっていう気持ちがあります。

128年。本当に長い長い古見小学校たくさんの子供たちが学んできた学校だっていうのも感謝してるし、ここで学んだ方たちが各地域で頑張ってること、協議会からもお話があったんですけど、私がいて守れなくてごめんね言えなかったっていうことを伝えたところ、協議会の方からもご連絡があって、そうなんだってねって言うから、そういうことしか言えなくて、私1人の力ではどうにもできないよって。でもみんなが協力してくれるから、頑張ろうねって話はしたんですけども、私ね、今回この統合の最初の話が出たとき、最初見たときに新聞に載ってたんです。新聞に載っていたときに、どこでこんな話になっていたのとこれがまず第1の大きなショックでしたね。

まず地域に話がなかったってこと。地域での話し合いがなくて新聞に載ってね。みんな、どうしたどうしたっていう感じで、私もあんまり気になるから山盛さんに電話してどうということ。だったら話してくれたらいいじゃない地域にとって地域に話がないまま進んでいったっていうことが、とっても残念なんです。

だからこれを、何で話してくれなかったのかなと。でも、他で話があったと言えど、他から話を聞いてもここで話してくれないと何にも話の進展がないわけですよ。

だからそういうので、何でこんなになったのかな。ということ。

それから、地域で話し合いをする機会っていうのもなかった。ということと、いろんなことに関してですねよくよく考えてみると、こんな少ないメンバーなのに、豊原から来て話もしてくれなかった。そして23日の日は来て色々な事を話したんだけど、な



んであの場は来て、こんなちゃんとしたお話には来てくれなかったのかなっていうとても残念な気持ち。

それを議会に通す地域のことを知らないまま、地域の人が知らないまま議会に持っていくなんて、それが本当に議員さんのやることなのかなという思い、皆さんはどう思っているのかは知らないけど、皆さんそれは思ってもなかなか言えないんです。

小さな村だけに、やっぱりあのちょっとしたことでも、他の人がそう言ってるよっていうふうに思ってしまうばなかなかまとまりがつかないっていうのがあってなかなか嫌なことも言わず、みんな協力してるわけなんですね。だから、私は今、今度の件では、別に私はこの統合については、反対じゃないけれどもこんなやり方は絶対間違ってると思う。しっかり地域にも話をし、そしてそれから議会に出すべきじゃないかな。と思う。そしてアンケートが来たときにびっくりしたんだもの、だって地域になかったってことがね、だからこんなことってあるって、あんまり不思議だから学校にも来て。こんなのって、聞いてますってやっぱり心配ですよ。だからそういうのは本当に私なんか何も知らないまま進められた。でも委員会側としては、出されたものはちゃんとやっていかなきゃいけない。その気持ちわかります。でも、そういう議会議員さんのやり方っていうのは私は絶対納得できないし、他のところであれば、絶対にこれは取り上げられることだと思ってます。だからそういうのを、議会側として議員さんとして本当にやっていいものかどうなのか、やっちゃいけないことだと思います自分なりに何年かはあったと思います。でも本当にしっかりこういう話があるんだけどどうですかっていう地域の話がなかったっていうのがとても残念でたまらない。それを議会にあげるちょっと違うかなってもう他にも言いたいことはありますが、みんな胸がいっぱいで、なかなか言えませんが、でも確かにこの120何年でもその10年間、10年どころじゃないな。20年近くは、生徒が減ったり増えたり、もういつかはそういうときは来る。今の現状を見ててもわかるように、村の人がまず少なくなったどうしてやっていくかっていうとやっぱり、この考え方、教育の現場の関わり方がいろんな形でここがいいっていう人もいれば、そうじゃないって人もいれば、そういうのはもう親御さんたちに任せて、私達はもう見守るしかないなというのは、思っております。ただただ心配なのは、本当に学校がなくなってしまえば、私達も伝統文化とかそういうのは残せるのかなという不安だから私はできるだけことは今、私がいる間はいろんなことを子供たちにさせたいなと思っていて、今度来月の9日ですかシマムニがありますよね。それも子供たちをぜひ子供会で一緒に連れてきて話聞かせたいなという気持ちで子供会の会長さんと話をしようというふうに考えております。

子供たちも参加できるような状況でいたいというのが私の思いであって、そういうふうにして、今学校がなくなっても、どうにか自分たちの村を守っていこうっていう気持ちで、みんなで協力していけばできるんじゃないかなと思ってます。

まだいろんなことを話したいんですけど、なかなかその場であると言えなくて、あれを言えばよかったな、これを言えばよかったなっていうのはいつも思ってます。

【竹盛委員長】はい、ありがとうございます。10月5日に行われた未就学児童保護者との意見交換の中で、町長に対してLINE、直行便で話があって、そこにどなたかが出したと。それが発端であると。

【総務課長】それが発端です。私たちは町長直行便には回答したのですが、町長からすぐ行こうということで町長が行く前に私達がPTAの皆さんと話し合いして、話を聞いた後に議会で議員が答弁したという形であります。

【新盛委員】議会に出す前に少し地域と話をすべきと。それが絶対に間違っていると思ってます

【総務課長】私達はこれを踏まえて、20年前の資料があってそれは先に地域懇談会の前にアンケートをとるべきじゃないかっていう資料があったもんでそれでまずアンケートをとらせてもらいました。

存続が統合化という形で、三択という形でやってもらいました。

だから私達は何も統合ありきでのアンケートじゃないということを理解していただきたい。でも結局もう在校生が転校するとか、それでやっぱり私達もこういう話をしないといけないし、まずいろんな校区の変更ができないかとか。やっぱり学校の存続するためには校区制を持っていかないと入ってくる子がいないとか。いろんな意見交換をしてその後に検討委員会を立ち上げたところです。

本来は教育委員会が検討委員会を立ち上げるのが先だということで、

それに基づいて、未就学児の時に委員長、副委員長と参加して頂きました。

その後に最終的に地域懇談会という形で持っていったつもりです。

【竹盛委員長】だから町長直行便に対して、町長はそれに対して答えなきゃいけないというのがあって、それで少し動き始めたそうですね。

【教育長】基本的には最初の町長直行便で来たのは校区制をなくしてほしいと、つまり古見から大原にいけるように校区制をなくしてほしいという意見が、町長直行便で来たんですよ。それに対して、町長に呼ばれて、これはどういうことかということ、学校には校区制というのがあって、その校区に住んでる人たちのお子さんはその学校に行くという決まりがありますよってことで、それをなくして、自由に親が好きな学校を選んでやっていくといろんな面で、学校の児童数が増えたり減ったり教員が異動することになったりするの、そういういろんなことをなくすために、校区制はしっかりと守っていかんといけないということで話をしたんですね。

それを多分そのときの回答にはなっていると思います。校区制はなくすことはできないと。校区制によって古見小学校は逆に守られてるんだよっていうと、多分、回答してると思います。その後から6月の議会に山盛議員から質疑があって。それを通して私が答えた。

【新盛委員】議会に出すのに、ただそれだけの話でポンと出すというのは。

【教育長】基本的には議員の皆さんは地域から情報を得て地域に話されていると

【新盛委員】1人でもこういう状況を話せば、出せるんですか。

【教育長】いやこれはもう議員の

【新盛委員】あんな大切なことをね、ちゃんと話してくれなかったっていうのは私にはとっても腑に落ちない皆さんもそう思うと思うんですけどそれはなかなか言い出せないというのが現状。だから、もうちょっとこの地域の方たちと、ゆっくりこういうことが上がってるけどどうって話し合いでも一応あればね、やっぱ変わってきたかもしれないし、聞くことができるじゃないですか。だからそういうのが一つもないまま、ポンと来られたら何が起きたのってしか思わないわけですよ。だから、それは何て言うのそれを今どうのこうの言うわけじゃなくて、こういうことがあっては困るな。だから例えば、他のことでも議会に上げたいことをね、もう相談なしに1人の人がそうやって出せるっていうのとか、やっぱそういうのって、しっかりこの地域にあった話し合いというのが必要じゃないかなと思うんですよ。だから私達なかなか大原総合センターで行ってお話をしなさいって言ったってなかなか話せないんです。皆さん、こういう仕事してるからできるかもしれませんが、特に私なんかも言ったって

何にも話せないし聞いたらもういやだと思っただけども、行かなきゃいけないのかなと思ってやるんだけど、本当にその場で話しなさい、意見を言ってくださいと言ったってなかなか言えるもんじゃないと思ってます。自分自身がそうだし、皆さんは言えるかもしれないけど私はそれができなくて、そういうことになったのかなって、自分もこうじゃいけないなと思っただけどもなかなか言えないというのが現状でね。だからこのことを知らない人が結構いらっちゃって、本当に聞かれたときにごめんなさいってしか言えなくて。

【竹盛委員長】新盛さんからの話の中でですね、やっぱりこの小さな村で、意見が割れて、集落がその意見の割れ方によって2分されるみたいなことが一番怖い。という話しも聞いたことがありますし、それでもって今、古見も学校もそうですけども、古見の村の歴史的な踊り文化とか継承にも非常に力を入れてるし、そういうことで意見がわかれて分断されてしまうと、この文化の継承にも非常に問題が出てきて、それを非常に危惧しているというような話でもあったし、だから体育館で、地域の中で話し合ったときも、意見として私が言ったら、またこういう皆さんに対して、意見が言えなくなるのではないかと心配されたという感じです。そういうことで学校を起点としてね、古見村がそうやって、島で一番に歴史のある村でもありますし、ここに住んでも皆さんが芸能文化そういうのを、あの承継していったるし、伝統的な衣装もたくさんあると聞いているので、そういうのを継承していくっていうことに、例えば学校が休校してもですね、そういう意味では、皆さん協力して地域の村に住んでる1人として頑張ってもらいたいと思います。では公民館長よろしくをお願いします。

【石原副委員長】はい。山盛さんの話を聞いてて現状として、私達が数年前、5年ぐらい前はね、重鎮と言われる人たちがドシンと構えていてその中に文化祭りなどが守られているという状況があり、各分野にも司がいてね。そういう安定感の中に地域があったんですよね。そういう人たちがどんどん亡くなっていかれて、本当に最後、新さんが亡くなって、本当にもう僕も公民館長になってやりながら、この地域をどうやって守っていったらいいのかなっていうかそういうことを感じていて、現実としても移住者が8割本当地元の人って本当少ないのが現状で、その中で新盛さんが1人孤軍奮闘って感じで、傍で見ているね、なんていうかな、もうあまりにも、悪い言い方するともっと新盛さんを、地元の人を応援したらいいのになっていうときも多々あります。

でも本当新盛さんの思いがすごくあって、僕は新盛さんの思いに寄り添ってね、一緒にやりたいって気持ちでいろいろ一緒にやってきたんですけど、そうは言ったって限界があるっていうのが現状で、その中で古見小学校がなくなるっていうことは、もう学校の先生も5~6人いたのがいなくなっちゃう。本当そういう中でまた人口も減る。さてこれからこういう中で、どうやってこの地域をね、やっていったらいいのかって、というのが今の現状で、だからなんていうのかな、なるようになるっていう部分もあるんですけど、ちょっといろんな意味です、農業の部分からいっても、僕の農業と語ってますけど仲新城さんと僕でやってるようなもので、もう本当にもう農地を守っていくこと一つにしてもね、本当にもう非常に難しい状況を感じていますし、20年後の古見っていうものはどうなってるのかってイメージしたときに、本当にそういうことを考えていくと、みんなで本当に知恵を出し合わない、数人の人間だけがやっぱり思いだけで動いていても、なかなか限界があるので、やはりこれ皆でどうやったら、この地域をね、やっぱり守っていけるのかなっていうところをね、考えていかなきゃいけない時期に来てる。そういうすごく抽象的なね、概念でしかものが言えないっていうかな。そういう感じですね。

【教育長】今日の朝、竹富の伝建の関係で國學院大学の先生がちょっと話をして、今、竹富町に、この大学の先生方は結構回ってきて、今、日本の国において、古民家、あるいは空き地、これをどう活用しようかということで、見たら竹富島も、他の島々も結構空き地があると、この空き地を何とか活用することを考えること、ここにお家を建てるそして、こうしたときに、土地を売ってくれとか、あるいは貸してくれといった時に、地主さんがわからない。という問題が、いろんな島で聞いたと。ということで、ぜひこの辺りを何とか行政の力でできないかって話は受けてきたんだけど、その中で、もし古見の集落においても、空き地があれば、その地主さんがどこどこにいるか、その地主さんが登記する人が亡くなったら、それを子供たちに遺産相続の権利によって、その子供たちがまた亡くなってまたその子供たちってそうなってくると、遺産をもらう権利の人が一つのこの土地に対して10名、20名と増えていくらしいんですよ。それを書類をもらうのが大変なので、もしそういう土地を、地域で今後の地主はどどこにいて、こっちがちゃんとしてるからできるよとかっていう情報があったら、もっとこの土地を移住者に売ったり貸したり、あるいはそこにお家を作ることができるんじゃないかって話もあって、なかなか面白いなってことで、ぜひこの辺りも竹富の伝建にしても、竹富集落にも空き地があるこの土地をどうにかして、例えばちょっと話もあるけど、星のやが、職員の住宅地に作りたいとかいう話もあった

りとかね古見においては、こないだも町長もちょっと話をしたんだけど、町有地に学校の宿舎跡、これももしうまくいけば、そこに何かアパートみたいな、団地なんかもできないかなとかね。そんな話もしていたんです。とにかく空き地の活用に、もしかしてもう古民家住んでないお家があったら貸して、とにかく住民を増やすことを考えることが先じゃないかなって話をしてるんですが、ぜひ古見の集落に住む人が1人でも、1家族でも増えればそれだけにぎやかにはなってくると思うんで、これからはそういうことに力を入れていく必要があるかなと。

ぜひまた古見の郷友会の皆さんが戻ってきて、自分の屋敷にお家を建てて住んでくれる方がいたらもっと嬉しいかなというこれもですね、だからこれからはもう住む人をどうして増やすか、どういうふうに引き寄せるかってことを考えないといけない時期に来てるかなと思うんで、ぜひこの辺りを。住めば、仕事はまた大原西部でもあちこち出てくると思うんですが、ぜひそのあたりをですね、まず住める状況作り環境作りをできたらいいかなというふうに考えてます。

子供たちが大原に行っても、ここで子ども会がしっかりやれば新盛さんが心配してるいろんなこと子供会を通して活動していけば、日本全国に学校が統廃合になって、自分の村から学校がなくなったっていう資料がたくさんあります。

でも、その村がなくなったわけじゃなくてそこでいろんな面で数頑張ってる集落もたくさんあります。ですから、前向きにぜひ子供たちが1人2人3名増えてそこで子供会ができて、それを地域で励まし合いながら、そこに地域の伝統芸能を継承していく。ことも一つの活動の方法かなと思います。そのあたりも考えながら、ぜひこの後は頑張っていけたらと思います。

委員会のこの学校の跡地、まだ結論は出てないんですが、とにかく寝かすよりは早く跡地を考えて古見に還元できる、何かできないかなというのを、考えていくことが先月から思っております。

基本的には教育委員会じゃなくて、町長局に財産の教育行政の財産から一般財産に行って町長部局に町の財産になっていくので、そこはもう町長、町の方もね、この活用について検討していく、検討委員会を立ち上げないといけないかなというふうに思っております。

【竹盛委員長】はい、ありがとうございます。

学校の話から地域の話に膨らんできましたけれども、やはり学校と地域というのは、特にこういう小さな集落小さいっていうのも西表竹富町内では、学校と地域の繋がりというのは非常に密接な繋がりがこれまであって、どうしても学校の話だと、地域の

話をしていくと、思っています。新盛さんが心配していることもですね、もし休校廃校になったとしてもですね。村が分断しない。新盛さんも引き締めて、地域の今、教育長が話したようにですね、地域の文化、芸能等、承継して、中心人物として新盛さんしか今のところいないとぜひ頑張ってもらいたいと思います。これは別に、統廃合したからでなくて、今後も同じようにですね、新盛さん頑張ってもらいたい。

【新盛委員】村が分断するってことはないです。ないと思ってます。ただただ思っても言えない。言えないというものがやっぱり心のどこかにあるとあんまりいい活動ができないわけですから、本当にきちっとみんなが割り切って話せる相談ができる、そういう状況の村であってほしいというのはね、誰しも願うことだと思うんですね。だからこれからあと、本当にどんなことでも、みんなで相談して話し合えば解決できるんじゃないかな。まず先にそれをみんなで考えることっていうのが大切じゃないかなと思っています。ただ今はそれができないためにできなかったために、役場、議会、山盛さんからもそれもそうやってきたんじゃないかなと思うし、もうちょっと議会、山盛さんに対しても話ができれば、そこまでやらずにすんなりお話もできて、学校にお話をなかなか言わせたい親、いやそうじゃないよっていう方たちもゆっくり話せばね、解決はできると思うんです。ただ、今、こういうふうに大きくなってという本当に自分自身がそう思ってますから、実際にね、なんでこんなふうになったのって、だから、もうそれを正していくとやっぱり最初の話合いがきちっとできなかったっていうのが一番の原因かなっていうのを感じて、やっぱり村を大切に自分たちもしっかり話をして、みんなが納得するようなことで進めていかないといけないんだなということを思っています。また本当にお祭りするにあたってはみんなの協力を得ながら、やっているのもそのあたりは心配はないんですけども、ただただ、いつまでこのようにしてやっていけるのかな。

なんか私の後に、結局いろんなことを継いでいく。どうしようかな心配ですね  
任せたらやっていけるとってはいるんですけども、やっぱり、先人が残してくれた大切なものってのがたくさんあるわけなんです。

それをやっぱ地元の、元々私が生まれ育った古見の分も預かってきてて。

でも不安なんです。でもそれをお嫁さんがとか、それからここに住んでらっしゃる石原さんとか、お家を持ってらっしゃる方たちにするとともに負担になると思うんですね。だからそこらあたりのこともしっかり協議会とも相談しながら、これから先どうしたらいいのかな、今の現状、本当に石原さんが言ったようにとても大変な現状。それを踏まえながらしていかないといけないなと思っています。

まず私が一番頼りにしている仲新城さん、石原さんのお家がある人まず古見にその古見にお家を持つて人たちっていうのにしっかりお願いをし、お願いねっていう感じにするんですけども、やっぱり団地っていうのは出入りの多いところ、それはどこの団地も一緒だと思ってます。それをずっとあなたたちお願いよお願いよと言っても、子供たちの成長とともにいくというのはもう前からずっと知ってることなので、せっかく古見のために団地ができたし、それから職場もせっかく作ってくれたのにな、ちょっとそれがうまくできたらいいなとか、やっぱりそういうふうを考えてしまう自分がいるんですけども、でもやっぱりそういうふうにしてしてきたから、これが中々抜けきれなくて、そうじゃないよねっていうのは聞かないんでね。

もう本当に古見小学校に通ってきた通ってきている子供たち見ても楽しそうだしでも、確かに集団性に欠けてしまうことは、ちょっとかわいそうだなという思いもします。その中で学ぶこともあるんだけど、あるだろうけれども、またできるんでしたら本当また再開できればいいなと思うんですけどなかなか一旦廃校してしまったら再開は難しいというのはもう、百も承知なんですけど、今日の晩って皆さん、言いたくても言えない。言ってしまうえば、どう思うのかなっていう気持ちが出てくると思うんですね。ですから、本当はこういうのをぱっと話せるような状況の場を作りたい。という気持ちでいます。

【竹盛委員長】はい。ありがとうございます。今日は最後の委員会なので、せっかく集まって頂いているので、一言でも委員の皆さんから地域のことでいいし、学校のことでいいし、お話してもらえます。仲新城さん

【仲新城委員】なんていうか新盛さんの話を聞いたら、残ってほしい、残してほしい。でも私としては自分の子供を出したときから統合したいっていう気持ちはずっとあったんですよ。やっぱ自分もここで働いたから、いいところもいっぱいわかってるけれど、やっぱデメリットがいっぱいあるんですよ。少人数だと。1年生から入ってきました。でも、他の学校では5・6年生の委員会でやるものも1年生からずっと一緒に放送委員会、図書委員会をずっとやってく、この小さい子の負担それ見るとちょっとかわいそうで、でもそのときは先生がパートナーになって一緒にこんなやるよってやってるけど、やっぱいやそこまでやらなくても、この段階では、これぐらいでいいんじゃないこの段階でこのぐらいでいいんじゃないっていう気持ちがあったから、やっぱ大きい学校行って先輩見て学びながら成長していくっていう、そういうのが理想だったんですけど、でも、やっぱりそれなりに周りがフォローしてくれるから、で



もフォローするのが大人が多いんですよ。生徒より職員の方が多から、結局過保護になってしまって、もう言っちゃえば何でもやってもらえるみたいな感じが。性格になってしまったりするんで、そうなるとちょっと、良い面もできず、どうかなっていう部分もあったりして、なんか私は統合にしたい統合したいと思ったんだけど、やっぱり地元にいるから、地元の人が出さないで統合っていうのもなっているんで、もう3人とも古見小卒業してって感じになったんだけど、でもやっぱり今の現状だと、私達の子供がいた時代と今の時代、全然環境が違うんですよ。私達が行ったときは、地元の間、地元のおじいおばあちが協力してって感じだったけれど、今はそのおじいおばあちも、みんないなくなっちゃって、小学校出てる子供たちも親はここの人じゃなく、ごめんねちょっと言い方悪いんですけど、よそから来て、ここがいいって好きで来てもらって出してるから、なんていうのかな。変な話、ここでお家借りているから、なんかあった時には出て行けばいい状況。だから1年で入学したいってやったけど6年まで持たなくて出てくってという状況。

それで先生が減になって子供たちもまた寂しい思いをするっていうのは、自分の子供出している時もあったので、そんな思いさせるぐらいだったら安心して1年から6年まで過ごせる環境で出したいな、もし自分が子供いればね、と思わないのかなと、でも人それぞれ考えがあるし、ワンツーマンの方がいいっていう考えもあるから、それはそれでもいいと思うんだけど、これからの状況を考えていくと、現に2人入学生いるよって言ったけど、1人結局、今月いっぱい、石垣に出ちゃうっていう話になると、そんな急にパツといなくなったりしたときに一緒に行った子が、やっぱり寂しくなりますよね。今年だって、本当は6年生いて4年生いて2年生だったのに、4年生の子が急に転校しちゃいますって3人だったから、親御さんたちも不安になって、どうしようかって話が多分出てきたと思うんで、そんなこと考えると、親の立場からしてもそうだし子供の立場からしても、そんな不安があるよりかは不安がない状況で、環境で育てほしいなって私は思います。新盛さんの思いで、地域に学校がないととか、子供がいなくなっちゃうっていう話も、やっぱりいた。ずっとこっちでも30年いるからわかるんだけど、何か考え方変えると、なんていうかな、ここに住んでいても、学校は大きいところに行けるよっていう安心感があると人口が増えて、逆に、お祭りとかそういうイベントごとが、人数が増えることによって楽になったりするんじゃないかなと、私の考えだけだと思うんです。こっちに引っ越してきたら、学校は古見小を出さないといけない。不安ながら来て、やっぱり違うかって出ていかれるよりかは安心してここに地に足をつけて生活してもらった方が、地域のためにもいいし、子供のためにもいい

んじゃないかなって思うんです。私の意見です。皆さんの意見はどうかは知らないけれど、やっぱり古見が好きで来てもらうために、古見にずっといてほしいから、やっぱり子供の安心した環境で育ててほしいなっていうのがあって、自分の子供ができなかったことをみんなにやってもらったらいかなっていう、そんな考えです。

【竹盛委員長】今村さん。もう何度もね、いろいろ話して頂きましたけどね、最終回として

【今村委員】もうやっぱり、寂しいなって気持ちです。本当に寂しいなっていうのも正直なところですけどもこのアンケート結果だったりとか現実を見て行くと、やはりこれ以上、今この対策の現状ではもうこれ以外ないということで、仕方がないなっていう思いで、未就学児古見小へ入学希望っていうのがうちなんですけれどもこれは本当に私は条件付きでっていう書いたんですけども、128年続いてきて、娘、私は何かあんまりデメリット感じてなかったんですけども本当に古見が好きで大好きで6年間通わせて。またこの大きく見ても、本当に教育ってすごく大きくシフトしてきている時期だと思うんですねやっぱりいかに今までどうしてもこのままっばい中のどうしても一方通行になってしまうような、本当に子供達が先生と対話をしながらコミュニケーションをとりながら授業を進められることであったりとか本当にこの古見の豊かな自然の中で実体験を通して、本当にこの感性を通してね感受性を本当に最大限にそういう豊かさを通して学んでいくこと、また本当にこの地域の方たちが言うことを先生たちと学ぶということ全て、自分がこう見て経験してきた中で本当に素敵な学校だなと思ってきたので、その思いがあったゆえに、何とか子供がどうにか増えないかなとかどうにか増え具体策はないかなと思ったときに私の中では小規模認定校っていうことだったんですけども、でもそれがね学校を移すことはできないということで、あとはやっぱりその未就学児の親やっぱりまだ保育所も学校に行かせたことのない親御さんはやっぱり具体的に、皆さん理想の教育とかあると思うんですけども実際に古見小学校ってどういうことがされていたよっていうのも具体的に何かあまり伝えられなかったことはちょっと一つ残念だなと思ったりもしました。個人的に伝えた事もあったんですけども、でも本当にそういうことがあったとしても、でも、この話し合いの中で皆さんが本当にそれぞれ考えて、答えを出して結果として、今後、形となっていくと思うので、本当にあの古見小が学校存続ができないとしたならば、子供会として本当に地域とどのようにさらにしっかり繋がっていくか。古美子供育成会の皆さんとまた考えていけたらいいのかなっていうふうに思います。

【竹盛委員長】校長先生は最後に皆さんの意見を聞いて感想を。西表さんお願いします。

【西表委員】長くここに勤めさせていただいて、ものすごく学校に感謝をしています。地域の方達とも、仲良くさせて頂いて本当はこのまま続けていきたい気持ちではありますけれども、現状聞いていると苦しいところもたくさんあって、どうしていいのかがまだ私にはわかっていません。でも、古見小学校には感謝しております。以上です。

【竹盛委員長】はい、ありがとうございます。林さん。

【林委員】いろいろな経緯があって、こういう話し合いの場があったと思うんですけど、みんなが子供のことを考えてだったり、地域のことを考えてだったり、みんなそれぞれがやっぱり良い方向を願っての意見が違うのもそういう話し合いだったと思います。それがみんなで確認し合えて、これから繋げて行きたいなと思います。私自身も地域のことだったり、私なりに一生懸命やらせてもらってるつもりですけど、古見小学校が、もしなくなったら、本当にまた地域が盛り上がっていけるようにみんなでやっていかないといけないことだなと思うので、胸がいっぱいですけど

【竹盛委員長】はい、ありがとうございます。次は育成会の高松さん

【高松委員】わたしの子が、新1年生に上がるっていう子がいたら、私1人でも古見小学校へ行かしてたなっていうのが、私の意見です。自分にそういうアンケートは来なかったんで、そういう意見です。

でも今から小学校上がる親御さんとかが希望して大きな学校でみんなと一緒に幼稚園のときのみんなと一緒に勉強したいっていう、意見が多いということだったんで、今育成会の会長をさせてもらって、あんまり活動できてないんですけど、地域の行事だったりとか、そういうものに育成会として参加したい。地域の昔のことを教えてもらったりとか、そういったことで地域の方と地域を盛り上げていけるような企画だったりができたらいいなとは思んですけど、なかなか今中学生、小学生も部活動やったりとかで、みんながまとまって活動するっていうことが現状で難しい。古見小学校存続という問題であるけれど、子供会もすごい人数が少ないから、みんなで何か一つ

やるっていうのも、何か難しい状況にきてるなっていう状況です。さっき、古見小学校のPTAの会長からお話あったんですけど、子供会として子供と一緒に地域と一緒にやれることをこれからもずっと続けて、地域が盛り上がるそういったお手伝いができたらと思います。私も移住者なんで、団地に住んでるから、いつ出ていくかわからないようになってるので、なるべく長く、一緒に活動できたらなと思ってます。

【竹盛委員長】はい。ありがとうございます。美原公民館長

【上原委員】公民館長として、1人の親としてなんですけど、本当に僕も子供を4人いるんですけど、2人はその小6小5できて、下の2人はもう小学校6年間、古見小学校行かしてもらって、本当ちょっと悔しいなと思って、もっと前からこの現状わかってたらいろんな話し合いもできて、小規模認定校とかも何かできたんじゃないかなと思って、学区外したりも、もう地域からも声出していけて、古見小ってすごい魅力的なので、他から呼ぶっていうのは絶対できると思って、本当もったいないなと思って、ちょっと悔しかった、それをなんか自分たちが、声出していけなかったのがちょっと悔しいなっていうのが今ちょっと思っています。一応、何かちょっと繰り返して悪いんですけど、素敵な学校だよね。でも、それ以上に、古見地区はもっと素敵なので、学校がどうなろうと、古見地区は、いろいろまた羽ばたいていけると思うので、この意見とさせていただきます。

【竹盛委員長】はい。ありがとうございます。古見小学校の校区、皆さんそういうふうなお話をしてもらいましたけど、その話を聞いて渡口校長先生、感想でいいです。

【渡口委員】これまでもいろいろ地域の人と話したり、保護者と話したりっていうのもやってきているんですけど、やっぱりね、少人数でのメリット、デメリットもあるだろうし、大原小学校と交流を年に一回やるんですけど、そこで抱えてる子供たちを見ていると、いう思いもし、でも、もう子供たちのことを考えてと言われたら苦しいけど、考えないといけない時期なのかなって思ったりもしています。苦しい決断ではあると思うんですけど、ここで一つ何かを決めていかないと、いけないのかなっていうのは感じます。

【竹盛委員長】はい。今日は皆さんにお話していただきましたけど、本当に学校も地域思いという。皆さんがその今回思いを持ってるんだなっていうのを再確認できました。そういうことを含めてですね、教育委員会が今後ですね、そういう意見も含めて、委員会会議、総合教育会議、それから、議会と話を進めていくことと思います。こういう委員会、そうですね笑いながらやりたかったんですけど、そういう笑えるような案件でもないし、非常に深い思いなんっていうんですかね。これも私にとっても委員にとっても深い思いであると。

皆さん、ありがとうございます。

はい次に今日の意見をぜひ反映させて欲しいと思います。

今後のスケジュールについて根原課長お願いします。

【総務課長】今回の意見を取りまとめて、委員長より教育長、教育委員会へ報告ということになってますが、この場を借りてそういう形で存続か休校か統廃合かについての話し合いに向けていきたいと思っています。

休校に関してもやっぱどうしても学校の維持管理等が出てくるものですから、古見公民館では、維持管理ができないっていう声も地域懇談会でもありましたし、どうしてもそういういろいろな課題があるもんですから、最終的に統廃合なのかなと、もう早めに要するに、それもまた2年何年後と同じ状況ですから、早く解決をしてくださいということですので、それでそういった意見を尊重していきながらしたいと思います。それに関して教育委員会と委員長とでこういう形でやりましょうってのはやり取りさせてください。その辺は委員長に一任できればと思っています。

それを踏まえて竹富町教育委員会会議というのが11月22日に開催されます。

その中で報告をして、次に向けてステップできればなと思って、それと町長を含めての竹富町総合教育会議というものにかけないとできないので、それはまだ11月中にするのか、年内にするのかまだ未定なんですけどそれはまた教育委員会会議を踏まえて早めに検討していきたいと思っています。

それを踏まえて最終的に議会の承認が必要なもんですから、学校の設置条例に関する一部改正という形になると思うので、その議案が12月か3月に提出になるのかなっていう話になります。どうしても、4月1日にいないという状況がありますので、それを前提として、先生方の職員配置、教育事務所との調整もあるので、そういう形になるのかなということでスケジュール的に考えております。

その辺をご理解いただければなと思っています。以上です。

【竹盛委員長】最後に古見公民館長何かありますか。

【石原委員】ちょっと確認したいことがこの古見小学校の場所ってというのは、土地は町有地になるわけですね。もし仮に、これをよその団体とかが使うとなった場合は、町有地のままで誰かに貸す感じになるのか、何かもう譲渡みたいな感じになるのか、そんなところをちょっと

【総務課長】その辺はまたこの間の地域懇談会でもあったように、もちろんまた、こういった検討委員会を立ち上げて、これは行政財産になるもんですから、普通財産にやらないといけない。それをまた町長部局にして、全体的にどうするか多分教育委員会が中心となって跡地利用検討委員会っていうのを立ち上げないといけないと思うんですね。ただ前回、20年前もあったと思いますがその時は、借金して造っている起債を借りてこの建物を造っておりますので、今年3月、年度内の3月でもって償還は全部終わるということで話を聞いているものですから、それに対してもやっぱり、跡地利用計画は、大学を誘致するのか、こないだの地域懇談会でも、自衛隊とかそういったいきなりの話はないですよってということで教育長は絶対ないってことで断言をしています。中にも公民館長地域代表という形で公民館長を入れて検討委員会を走らす予定であります。

【石原委員】グラウンドは今、子供達がよく使っている。このグラウンドをやっぱり地域の財産として残してほしいとこれはこれで決めていくことですが、もし変な話そこが全部買収されてねそういうことが起こってくると、また違う世界になるなど、そのあたりは慎重にやった方がいいなと思います。

【総務課長】地域の意見をやっぱり尊重して、コミュニティスクールという案もあるんですが、やっぱりコミュニティというか地域が一体となってやらないといけない。それはまた負担なのかなっていうのもあるし、いろいろな検討課題ありますし、その辺はまた、今後のやっていくかなと思ってます。ただ古い倉庫とか古いのもやっぱり取り壊さないといけないのもあるし

【竹盛委員長】跡地利用については、検討委員会が設立されて、そこで古見地区の意見を本当に反映できるように古見地区としてもたたき台がないと、その意見も、その意見に対して意見するっていうのはできないと思うんですけども、最低限今みた

いなね、譲渡するのか、貸すのかということを含めてですね、古見村集落で、そういう話し合いを持って意見をまとめておくことも必要じゃないかなと思います。

【総務課長】そうですね。その辺はまた公民館長、地域の意見を取りまとめて

【竹盛委員長】あと情報をね、公民館と相談しながら進めてやってください。今日そうですね7時から始まって1時間30分なろうとしておりますけども、大変今日はもう有意義なお話ができたんではないか聞いたんではないかと思います。

ありがとうございました。

私もこれで解任です。ありがとうございました。

【総務課長】ありがとうございました。これをもちまして第2回古見小学校学校存続・統廃合に関する検討委員会を終了したいと思います。

お疲れさまでした。

(20時30分閉会)

## 第7回 竹富町教育委員会（定例会）会議録

- 1 開催日時 令和5年11月22日（水） 午後2時00分 開会
- 2 開催の場所 竹富町役場 3階庁議室
- 3 出席委員及び説明員・記録員

職名	氏名	職名	氏名
教育長	佐事 安弘	説明員	根原 健 総務課長
委員	嘉良 寧	〃	西原 智 教育課長
委員	川満 晃弘	〃	登野盛 恒雄 社会文化課長
委員	松原 史		
委員	仲底 傑	記録員	大屋 裕次 総務課長補佐

【教育長】皆さんこんにちは。今日はまず始まる前に仲底委員から当定例会に20分程度遅れる旨の報告がありました。会議途中から参加頂くという事でご了承願います。また、嘉良委員が本日初めての定例会でありますので、嘉良委員からご挨拶をお願いします。

～ 文書途中省略 ～

【教育長】次、議案第16号について課長お願いします。

【総務課長】ページ117ページ。議案第16号竹富町立古見小学校の廃止について竹富町立古見小学校を下記の理由により廃止します。

1. 名称 竹富町立古見小学校、2. 住所 竹富町字古見88番地の2、3. 廃止予定日 令和6年3月31日、令和5年11月22日提出、竹富町教育委員会教育長 佐事安弘。
- 提案理由として、令和6年度以降において 古見小学校の在籍者がいないことが見込まれること、また少子高齢化が進行する今日、入学する児童生徒が継続しないことと、PTA、地域公民館とも小学校を廃止することに合意を得たことに伴い、古見小学校を廃止したいので、竹富町教育委員会の権限に属する事務の一部委任等に関する規則第2条第1項第2号の規定により、教育委員会の決定を経るため、この議案を提出する。



以上でございます。

【教育長】別紙の資料をもとにしながら、古見小学校の存続、統廃合の検討委員会を立ち上げてまして地域懇談会等を開催してまいりました。その議事録等々の資料を添付してあります。資料を見ながら、検討をお願いしたいと思います。

【仲底委員】廃止予定日の3月31日までは、学校は存続ということですか。

【総務課長】次年度4月1日からは大原小学校に統廃合という形になります。

【嘉良委員】これは別紙の資料1はあくまでも推移予定ですけども令和8年度までは在籍が3名ということで、それ以降はまた2人ずつ、9年度10年度と入ってきますよね。例えば令和10年はもう6名になる。今の推移を見ていくと、この辺りの資料も地域の人には分かっていますか。

【教育長】分かっています。これはあくまでも未就学児の子供たちの数で、その親だけを集めて話をしました。現在は6年生が2人、2年生が1人、来年2人の入学予定がもう既に1人は転出した。それに2年の子が3年に上がっても、自分は大原に行くと言っている。

新一年生は1人になり、上級生もいなくなれば、親も大原に行かせたいということで来年度はゼロになります。あくまでこれは予定人数で表記してありますが、休校にして復校するときの条件として、児童数は何名いたらいいですかという質問があり、私の判断で、最低でも3名以上いなかったら、私は復校しないという気持ちを持ってますという話をしました。未就学児童の保護者は、1年生が3名で上級学年がいないのであれば、大原小に出します。上級学年がいない中では1年生だけの学校というのは、考えられないということで、だから休校にしても復校はあり得ないかなということで、統廃合しかないのではと話は一気に進んできました。

【総務課長】この件に関しても結局、平成21年22年頃にもお話がありましてあのときは教育改革かな。その中でほぼ統廃合とは決まっていたんですけど、ほとんど体育

館とか、ランチルームは起債を起こして建物を建てた。借金が残っているってことで大原小への統廃合がなくなったという経緯があります。

大体10年周期でこういったことが起きていて、今回も6年生が2人卒業すると、在校生が1人になる、しかも上がって3年生になる。1年生2人入ってきますが、1人の親は転校をさせるっていう話で既に転校手続きをしています。

【嘉良委員】この子は大原に転校するということですか。

【総務課長】大原でなくて石垣で。あと1人の子もやっぱり大原に行きたいと。あとまた3年生になる子も結局1人なら不安ということで、その前から大原に行きたいっていう話で校区制の問題があるものですから、やっぱり大原に行きたければ古見から出ないといけないっていう事になります。

一番の理由は、幼稚園保育所は一緒に過ごして、なぜ小学校だけ別にしてまた中学校一緒になる事や低学年だけでは児童会活動や諸行事においてどうしても不安があるという未就学児童の親の意見もありました。1人でも行かすという親も採取的には、1人では不安という話でした。

【嘉良委員】一番子供にとっては子供のことが一番考えないといけないと思うんですけどもやっぱり、地域の活性化に大きな影響がでますよね。128年余りの歴史をもつ古い学校、古見小です。だから地域の統廃合についての理解というか合意というか、この辺りの声はどうですか。

【総務課長】令和5年5月1日、現在の保護者と、意見交換を行いましたその中でやっぱり同じような意見でした。

中には、どうしてもという意見もあって、その後地区住民に（校区の古見、美原、由布、高那）まで含めてアンケートしております。アンケート結果は資料2であります。それと同時に未就学児童保護者20名夫婦それぞれ、アンケート調査をしました

資料3となります。それを基にして検討委員会を立ち上げて、第1回検討委員会を開催（主に辞令交付）委員のメンバーにはPTAの皆さん、子供会、婦人会、公民館長、地域の方が代表で入っていただいております。その中でもやっぱりいろんな話が出てほぼ不安っていう意見がありました。未就学児童の親との意見交換会の中でも。

同じような意見が出てました。休校という手はないのか、校区制を外せないのか等、の意見もありました。校区制を外すと示しがつかない。意見交換会の中には卒業生の父母もいて、自分も6年間1人だったとやっぱり自分の子供は大きなところで、勉強させたいという話もありました。最終的に休校にしても結局同じようなことがまた何年か周期で来るという話になり、最終的にもう結論を出した方がいいんじゃないのかという話に至ったところでした。

その後、地域懇談会を10月23日に行いました。未就学児童保護者と意見交換会（10月5日）開催しました。ほとんどが検討委員会と同じようなメンバーですが、その中でこの問題は、何年か周期で何回も出てきたし、休校にしてもやっぱりまたその時、また同じような問題が出てくる。平久保の例をとって学校の維持管理は公民館が行っていますと話したら、いやもう公民館も人もいないから、そういった管理ができないという話も出てきました。その中で、もういい加減に決着した方がいいんじゃないかっていう意見が出て。在校生も元々からの地域の子たちじゃなくて、外から来た子供たちだと、古見地区にはもう住むところがない。要するに土地を買って家を建てるあてもないし、どうしても団地にしか頼れない。でも団地に関しても低所得者向けの団地ですから、誰もが入れるってということでもないってするので、そういう課題もあるって話をして、そういった意見が上がってきました。

その中で11月7日、第2回の検討委員会の中で、話をしてやっぱりもう決着する時期に来てるんじゃないかと。いう話になって、本委員会に上げた次第でございます。

これを踏まえて、12月5日に竹富町総合教育会議、別に町長も含めて教育委員の中で最終決定をして、できれば12月の議会に上程する予定であります。

なぜかという11月までに教員の配置に向けて動き出すものですからそれまでに報告をしないといけない。現時点では、いなくなる見込みがあるもんですから。

細かいものは議事録等にありますので目を通して頂ければと。以上です

**【川満委員】**古見小学校に今配属されている先生の数は何名いますか。

**【教育課長】**職員は校長先生それから教諭2人、そして養護教諭、そして学校事務、県費職員はこれだけです。その他用務員、それからバスの運転手、図書館司書が大原と兼任で

【総務課長】用務員に関しては役場の会計年度職員で、バスの運転手に関しては、業務委託契約を交わしています。またバスの運転手に関しては、統廃合しても仕事があります。

【教育課長】補足で言いますと本来は今年度、学校の先生は1人なんですけど、2年生と6年生で複式学級を持つのは大変だということで、教育長のお計らいがありまして、県の教育委員会に調整をして、研究指定校という形で、1人余分にもう特例で、小規模ではほとんどないんですが、教育長を通してお願いをして、県内で2校しかないと思うんですけどそこに教員1人配置して2人体制でというところです。

【総務課長】一番ネックなのは保育所幼稚園で一緒に生活をしてるのに、小学校で別れる、また中学校で一緒になる。何でなのっていう意見が強く、最終的に子供のことを思うと統廃合しかないんじゃないかと。起債に関しては体育館とか、その建物の借金に関しては、今年度3月31日をもって償還完了ということになってます。資料は最後になります。

【川満委員】廃校となると跡地利用とかは

【総務課長】その件に関しては、行政財産ですから普通財産に改めて、その後は跡地利用検討委員会を立ち上げて、その中には公民館長も入れてもらえないかっていう話があり、地域からの意見としては波照間空港がこの間自衛隊が入ってくるとかいきなり話が出てました。そういうことはないでしょうねと。そういったことがないように教育長としては、地域の方も入れて本当にきちんとした跡地利用計画を作っていきたいと地元説明会では話しております。

【教育長】一番は親たちの思いと、やっぱり子供たちが主人公だから、子供たちのためにはどっちがいいのか、子供たちのために思ったらもう大原に通った方がいいという判断で、あと一つは休校にするという考えもあったのですが、休校にしても復校する可能性が低いので、逆に跡地を有効活用して古見に人が入るようなことをした方が、古見のために活性化に繋がるんじゃないかってことでこの辺りで多分理解ができたかなと思います。廃校が決まれば、早急に財産を移転して、跡地利用検討委員会を

立ち上げ、これから検討しながら、古見の方に役立つような、あるいは活性化に繋がるような団体を誘致するか、町のいろんな施設のできる事が考えられます。このあたりはこれからの検討ということになります。

再度12月5日に皆さん含めて、町長交えて竹富町総合教育会議に向けて資料にじっくり目を通して頂いて、保護者のコメント等もありますので、委員の皆様と竹富町総合教育会議で、いろんな意見が出せるように宜しくお願いしたいと思います。

議案第16号について承認ということによろしいでしょうか。

【全委員】異議なし

【教育長】ありがとうございます。次に議案第17号について審議事項よろしくお願ひします。

【総務課長】 ページ118ページ。議案第17号竹富町立学校の通学区域を定める規則の一部を改正する規則

竹富町立学校の通学区域を定める規則(平成3年竹富町教育委員会規則第1号)の一部を次のように改正する。

別表第1大原小学校の項通学区域の欄中「区域」の次に「、大字古見及び高那の区域」を加え、同表中「古見小学校」及び「大字古見及び高那の区域」を削る。

別表第2大原中学校の項通学区域の欄中「、古見小学校」を削る。

別表第3おおはら幼稚園の項通学区域の欄中「、古見小学校」を削る。

附則 この規則は、令和6年4月1日から施行する。

提案理由本案は、竹富町立古見小学校の廃止に伴う大原小学校への通学区域を定めるもので、竹富町教育委員会の権限に属する事務の一部委任等に関する規則第2条第1項第17号の規定により、教育委員会の決定を経るため、この議案を提出する。

以上です。

【教育長】新旧表が次のページに載っております。ここがこう変わりますよっていうことです。よろしいでしょうか。

【全委員】異議なし

【教育長】ありがとうございます

～ 文書途中省略 ～

【教育長】これで、第7回竹富町教育委員会（定例会）を終了したいと思います。次回の定例会は令和6年1月31日（水）午後2時からの開催とし、変更の場合は事務局より連絡いたします。

【教育長】本日の審議はこれで終わります。

【教育長】令和5年度第7回竹富町教育委員会定例会をこれで閉会といたします。

（午後3時25分閉会）

## 竹富町総合教育会議 意見提出様式

令和5年度 第1回総合教育会議		
議題	古見小学校の統廃合について	
	協議事項	統廃合の可否について
意見記入欄	<p>古見集落、古見小は竹富町西表島において紡がれてきた歴史の中でも非常に古くその文化と民俗も大変貴重なものです。</p> <p>誰しものが、今回の件において他人事ではなく大変残念に思い存続をただ願うのは自然なことです、やはり現況の厳しさや現在の保護者の気持ちを慮ばかると多少の納得できる気持ちも理解します。</p> <p>今ここにおいて大変難しい判断です。</p> <p>関係者の苦悩も如何ほどか計り知れません。</p> <p>一般町民としては、これから数年十数年で訪問税はじめ財源確保なる方策を期待しています。今少し待てないか、再度ご検討いただけないかお願い申し上げたい。各所多くの議論を重ねこの判断に至ると思うが、まだ待てるだけの余力や展望はないか再度ご検討願いたい。</p> <p>行政も内情も知り得ず、提案提言できる方策も何もないただの感情論ではありますが、一島民としてただそう望むしかできません。</p> <p>私ら祖納・干立集落や西表地区、西表小中学校も現在大変過疎化が進み難しい状況を迎えています。</p> <p>これまで、鳩間や船浮、そして古見集落を大変憂慮してきました。</p> <p>しかしまさに今、古見小が統廃合を寸前に迎えたことを目の当たりにして、これは竹富町の又は西表島の将来に対する縮小展望だと懸念せざるを得ないのです。</p>	

竹富町は様々な島々の集落の集合体で、ある種の運命共同体のようなものでもあります。

また現在、第一次産業をはじめとした様々な経済活動のうち、特に観光業に多くの期待が集まっておりますが、どれも大変重要なものであります。

同様に、一集落に目を向けても、規模の大小関わらずそれぞれに特色があり貴重であります。

特に古見集落のような歴史と文化を持つコミュニティの存続は、竹富町においても特に重要で将来より貴重なものになってくると思います。

古き歴史と文化を持つ古見さえも、近代の人口減少とコロナ禍にもよって、アカマタ行事や結願祭をはじめとする多くの祭祀が執り行われなくなってきて久しく、歴史を省みると、やはりその地域の学校が潰れるということは、地域の規模縮小や文化・行事・歴史の廃絶、御嶽の存続と後の廃村にまで繋がる大きな要因のひとつだったでしょう。

集落や地域コミュニティを存続させる為に、島の郷友会や郷友各々と多くの話し合いを持つことも重要で、内外から多数の貴重な意見を集めることも必要だと強く感じます。

なにより島々の郷友が島に帰る為の土壌(雇用と住宅)と展望を掲げ、方策を考える必要を近年特に強く思います。古見集落のようなコミュニティには特にそう感じます。残念ながら自分にはまだそのような方策が浮かびません。しかし、切に必要性があります。

時代の変遷により産業をはじめとする物事が大きく推移し、古き小さきものは廃れ、新しく大きな流れに物事の耳目が集まることは自然の流れではありますが、それでは私たち竹富町の島々の島民が守り紡いできた文化や歴史、人々は何処に身を寄せたら良いでしょうか。

島々の色合いもいずれ消え失せていく運命にあるのでしょうか。



物事にはバランスがあり、やはりコストや採算性等を重視した経営健全化や財源確保も現在の行政運営においては非常に重要な任務だとは存じますが、何がムダでムダでないかは価値観により大きく左右されると同時に、少し遠い先にならないと良し悪しを判断できないことも多分にあることでしょう。

世界自然遺産に認定されてこれからまた多くの選択肢も出てくることと期待しています。

ひとつ言えるのは、消失したものはなかなか取り戻せないということです。

方言や文化や慣習、御嶽の神事、その地域の人々の結び付きもまた雲散霧消し整合性を失い、再びその歴史や文化と社会を再興するのに大変な時間と労力が必要です。

さらに良くも悪くも物事は連鎖性があるので厄介なものでしょう。

私たち竹富町民は今ここに島々に生きています。

昔から紡がれる歴史と文化の中で、島の営みの内に。

竹富町は他と何が違うか。

それは古き歴史と文化の泉であるということです。

それを今の人たちが尚も今生きて体現しているところにあります。

それら色合いが集まった竹富町こそ、これからの展望に向けて重要な要因になっていくものだと確信するとともに、やはり行政においては小さな産業や地域コミュニティーほど補助と保護を再考してバランスを保ってほしいと切に願っています。

遠く望めば時節もいずれまた変わります。

またひとつ希望を持ちながらこれからも島々を眺め島に骨を埋めたいと切に願います。

最後に。実情も知らず何の提案や方策も提示もできずただの感情論で申し訳なくと思いますが、新聞でこの件を知った時は一島民としてやはり何か言わずにはおられないほど大変無念に感じたことであります。

いろいろ事情もあったことと思いますが、このパブリックコメントももう少し早目の段階で周知していただきたく、また地元古見集落と関係各位だけでなく、広く竹富町民にも問題提起して意見募集してほしくも思いました。

誰しも廃校は望みません。  
休校や統合の措置も考えると思いますが、やはり考えると学校存続しか古見村の存続もないのではないのでしょうか。

私たち今の祖納人、西表人にとっても、古見も船浮も鳩間も他の島々のことも決して他人事などでなく、これは今お互いに考えていくべき問題なのです。

人は生まれそしていつか死にゆきます。  
そこに生まれた島人であるならば、やはりいつかその島のふもとに還りたいことと思いますが、生まれ育つべき場所がなくなるのならいずれ廃村は免れず、人の帰る場所もまたなくなります。

全体はやはり繋がっているので、これは現代に生きる人だけの問題ではありません。  
もう一度時間をかけて全体で考えていかなければならないと、大変恐縮ですが私はそう思った次第です。  
協力できることがあれば何かしらいつでもする所存です。

どうぞまた検討の余地がある限り、どうか最後までご検討くださいますようお願い申し上げます。

投稿者	氏名	那良伊 隼人
	住所	竹富町字西表 429 A-1
	電話番号	080-1767-5869

※いただいた意見について、記入内容確認のためご連絡する場合がございます。  
 ※意見提出については、下記担当者宛てご提出ください。

担当 竹富町役場政策推進課 崎山 TEL : 0980-83-0507 FAX : 0980-82-6199 E-mail : seisaku@town.taketomi.okinawa.jp
--

## 竹富町総合教育会議構成委員名簿

No.	職名	氏名
1	町長	前泊正人
2	教育長	佐事安弘
3	教育長 職務代理者	嘉良寧
4	教育委員	川満晃弘
5	教育委員	仲底傑
6	教育委員	松原史
7	教育委員会 総務課長	根原健
8	教育委員会 教育課	西原智
9	教育委員会 社会文化課長	登野盛恒雄
10	政策推進課長	小濱啓由

竹富町総合教育会議設置運営要綱

平成28年 2月 3日

告示第 4号

(趣旨)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第1条の4の規定に基づき設置する竹富町総合教育会議（以下「会議」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 会議は、本町の教育及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱の策定に関する協議及び次ぎに掲げる事項についての協議並びにこれらに関する次条に掲げる構成員の事務の調整を行う。

- (1) 本町の教育を行うための諸条件の整備その他の本町の実情に応じた教育及び文化の振興を図るための重点的に講ずべき施策
- (2) 児童、生徒等の生命又は身体に現に被害が生じ、又はまさに被害が生ずるおそれがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置

(組織)

第3条 会議は町長及び教育委員会（第8条において「構成員」という。）をもって構成する。

(会議)

第4条 会議は、町長が招集し町長が議事の進行を行う。

- 2 教育委員会は、その権限に属する事務に関して協議する必要があると思料するときは、町長に対し、協議すべき具体的事項を示して、会議の招集を求めることができる。

(意見の聴衆)

第5条 会議は、第2条の協議を行うにあたって必要があると認めるときは、関係者又は学識経験を有する者から、当該協議すべき事項に関して意見を聴

くことができる。

(会議の公開)

第6条 会議は公開する。ただし、個人の秘密を保つため必要があると認めるとき又は会議の公正が害されるおそれがあると認めるときその他公益上必要があると認めるときは、この限りではない。

(議事録の作成及び公表)

第7条 町長は、会議の終了後、遅滞なく議事録を作成し、前条ただし書により非公開とした部分を除き、これを公表する。

(調整結果の尊重)

第8条 会議においてその構成員の事務の調整が行われた事項については、当該構成員は、その調整の結果を尊重しなければならない。

(庶務)

第9条 会議の庶務は、政策推進課・教育委員会総務課において処理する。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、会議が定める。

附 則

この要綱は、公布の日から施行する。

附 則 (令和3年10月1日告示第71-1号)

この要綱は、令和3年10月1日から施行する。